

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年5月6日（木） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】 常盤ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○（地区代表者5名） 常盤地区自治会連合会会長 ：有馬 道男 常盤地区民生児童委員協議会会長 ：坂本 早苗 わくわく常盤会長 ：藤永 徹也 老人クラブ連合会会長 ：山本 芳一 常盤地区社会福祉協議会会長 ：野村 隆 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、政策調整課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○空き家問題について 【自治会連合会会長】 ・空き家が増加している。庭が荒れ、古い納屋が壊れそうなところもあり、住民に危険が及ぶ可能性がある。市へ対応を依頼しているが進捗状況を教えてほしい。所有者との連絡状況などサイトなどに掲載できないのか。 【市長】 ・第2次宇部市空家等対策計画を策定した。自治会・民生委員・ケアマネージャーの方などと空き家について情報共有できる体制をつくるよう指示している。 ・空き家は所有者等の財産であるため、関係者以外に詳細な状況をお知らせすることはできない。 ・国の制度改正を踏まえながら、危険な空き家については、行政執行も視野にいれて、取り壊しを進めていく必要もあると考えている。

○防災屋外スピーカーについて

【自治会連合会会長】

- ・防災屋外スピーカーの試験放送が実施されたが、自宅ではサイレン及び音声がほとんど聞き取れなかった。緊急時には役立たないのではないかと危惧している。
- ・今後も継続して使うのか。聞こえるようにしていくのか。

【市長】

- ・常盤地区の試験放送では、機器の不備があり、特に1回目は音が小さかった。本番ではもっと耳に響く音声を使用する。
- ・緊急時の情報伝達の手段は、防災屋外スピーカーだけで十分とは思っていない。携帯電話、屋内であればテレビ等をさまざまな手段を使い、緊急時の第一報が市民にしっかり届く体制を整えることが重要だと考えている。
- ・エリアの広い北部地域では、防災屋外スピーカーだけでなく、防災ラジオの整備も進めている。600台の導入を予定しているが、他地区の市政懇談会でも要望が多かったため、拡充の必要があると考えている。
- ・今後も継続して使っていきたいと考えている。検証し、スピーカーの増設や他の手段なども検討する。

○ごみの分別・収集について

【自治会連合会会長】

- ・ごみの分別が細かすぎてわかりにくい。分別の必要性、リサイクル等にどのように還元されているのか説明して欲しい。
- ・市は分別について自治会任せである。細かい分別が本当に必要なのであれば、市が主体性を持って取り組み、指導などをしてほしい。
- ・回収されなかったごみについて、何が問題だったのかをもっと明確にしてほしい。
- ・「家庭ごみの分別と出し方（改訂版）」の冊子について、希望する人には配布してほしい。

【老人クラブ連合会会長】

- ・常盤小学校近くの団地に住んでいるが、月曜日が燃えるゴミの日、火曜日が荒ごみの日である。月曜日に回収されないゴミが多いと、翌日の荒ごみの置き場がなくなる。荒ごみ回収週の月曜日はゴミをすべて回収してほしい。

【市長】

- ・市のごみ収集等の現状やごみの分別の意義、方法等について説明会など開催するよう担当課に指示している。
- ・ゴミを回収しなかった場合、その理由について、しっかり伝わるようにしたい。
- ・冊子は、地区からの要望があれば追加でお渡しできる。
- ・地域でごみ分別のルールがわからない、守らない人への対応で、お困りのことがあれば、担当課へご申し出いただきたい。
- ・月曜日は草木のゴミも多くでる。生ごみ優先で収集しており、月曜日に収集できない

場合がある。可能な限り収集するようにしたいが、荒ごみ回収がある週は、草木などのごみについては可能であれば水曜日に出すなど、地域の方にもご協力いただければ、市としても非常にありがたい。

○高齢化問題について

【民生児童委員協議会会長】

- ・地域の高齢者の交流の場を設けるため、地域いきいきサロンを運営している。自宅にこもりがちな人たちに参加してもらうにはどうしたらよいのだろうか。
- ・老々介護が多いのが心配である。
- ・バスの便が少なく交通の便が悪い。坂が多い。小型の送迎用バスを検討できないか。

【市長】

- ・高齢者の方が外出したくなる仕組みを作ることが地域のつながりを強くし、高齢者の健康の維持にも繋がると考えている。市全体の大きな課題だと思っている。
- ・地域内交通について、他地区での好事例をまとめている。常盤地区でも必要なエリアへの導入を検討したい。
- ・全国の先進事例では、高齢者福祉施設の送迎車を地域の方も利用できる取り組みが進められている。高齢者の方に利用してもらえるようにするには、シンプルでわかりやすい仕組み作りが大切だと思っている。例えば、ふれあいセンターに予約の電話を入れるだけで、調整はセンターが行うなど、簡単に利用してもらえる仕組みがつかれないか、検討したい。
- ・買い物支援としてスーパー等と提携した移動販売車が展開されている。

○住民票の取り方について

【民生児童委員協議会会長】

- ・市民センターとふれあいセンターでは取得できる住民票等の種類が違う。違いが一目でわかるものがほしい。

【市長】

- ・証明書類の一覧表については、持ち帰り検討する。
- ・現在建設中の新庁舎では、できるかぎり市役所に来庁せずに必要な書類等、手続きができるようにデジタル化を進めていく。また、総合窓口一か所でさまざまな手続きができるようにしたい。
- ・デジタル化というと、高齢者の方には苦手意識を持たれる方も多いが、情報発信を行い、皆様に伝わるようにしていきたい。

○ときわ公園について

【民生児童委員協議会会長】

- ・子どもからの質問であるが、ときわ公園はこれからも存続するのか。

【市長】

- ・存続させていく。今、ときわ公園には新たな可能性が出てきている。コロナ禍で地方

移住やワーケーション等の需要が高まり、ときわ公園にオフィスが欲しいという問い合わせがある。

- ・ときわ公園実証フィールド活用プロジェクトチームを5月1日に設置した。ときわ公園の新たな可能性を探っていきたい。

○介護相談員制度について

【民生児童委員協議会会長】

- ・施設と利用者をつなぐ重要な役割を担う介護相談員制度がなくなった。必要ではないか。

【市長】

- ・担当課に持ち帰り、ニーズ等を把握しながら検討したい。

○若者の定住について

【民生児童委員協議会会長】

- ・最近、エヴァンゲリオンで宇部市が話題になっている。若い人たちに宇部を知ってもらい、定住できるようなくみづくりにつながるようにしてはどうか。

【市長】

- ・エヴァンゲリオンについて、イベント等のまちおこしの種を準備している。
- ・市のPRについては、情報を受け取ってもらいやすいように様々な形で発信することが必要だと考えている。
- ・宇部市にかかわる様々な方にふるさと大使を委嘱している。最近では、YOASOBIのAyaseさんに委嘱し、若い人たちへのアピールの協力をお願いしている。自身のSNSでチョコクンを紹介していただき、大きな反響を得た。さまざまな手段と通じてしっかりと情報発信をしていきたい。

○炭鉱の歴史について

【わくわく常盤会長】

- ・炭鉱に関する遺構の保存活動を行っているが、市職員にも活動に目を向けてほしい。
- ・宇部市の歴史は炭鉱を抜きにして語れない。市職員にもよく知ってほしい。
- ・石炭記念館の存続についてどのように考えているのか

【市長】

- ・石炭の歴史なくして宇部市は語れない。宇部市の発展の原点は石炭、石炭産業だと思っている。その歴史を大切にしたい。子どもたちへの教育も大切である。
- ・石炭記念館の機能は残したいとは思っている。
- ・市制施行100周年の年でもあるので、あらためて宇部の原点、石炭の歴史についての職員とも共有していきたい。

○道路脇水路の危険個所について

【わくわく常盤会長】

- ・高齢者が深さ約1.8メートルの水路に転落して骨折した。市に、安全対策をとってもらいたいと依頼したところ、深さが2メートル以上でないと対応できないとのことだった。

【市長】

- ・担当課に確認させるので、危険な場所を教えて欲しい。

○湖水ホールについて

【老人クラブ連合会会長】

- ・以前、湖水ホールと駐車場の間にスロープがつくられたが、数か月後に階段の設置工事が行われていた。無駄な支出がないように計画的に工事を行って欲しい。

【市長】

- ・しっかりと計画を立てて、貴重な税金を使っていきたい。

○西部体育館・中央公園テニスコートの昼食場所について

【老人クラブ連合会会長】

- ・昼食をとることができない。なんとかならないだろうか。

【市長】

- ・西部体育館ロビーで食事をとることは可能であるが、コロナ禍であるため、他の利用者にも配慮していただきながら、感染症予防対策をしっかりとっていただき、向かい合っただけの長時間の食事は控えていただくようお願いしたい。
- ・中央公園テニスコートでは、新型コロナの感染予防対策のため、管理者の判断でテーブルやイスを撤去している。コロナ感染状況を確認しながら、利用しやすいように再設置することも検討していきたい。

○道路の補修について

【老人クラブ連合会会長】

- ・道路がでこぼこになっているところがある。高齢者が転倒する可能性があるので、対応をお願いできないだろうか。

【市長】

- ・担当課に確認したところ、市道ではなく生活道路との事であった。制度上は地元管理の道路である。地元で補修等を実施する際には宇部市が助成する制度があるので、活用していただきたい。制度の詳細については担当課から説明させる。

○ふれあいセンターの垣根の剪定について

【老人クラブ連合会会長】

- ・ふれあいセンターの垣根の剪定を老人クラブで行っている。会員のけがを避けたいので、センターで若い人たちを集めて実施してもらえないか。

【市長】

- ・センター周辺的环境整備については、地域の皆様にご協力をいただいているが、ご負担にならないよう協議検討し、困難な場合は市で対応したい。

○ときわ公園の街灯について

【老人クラブ連合会会長】

- ・ときわ公園の遊歩道の街灯が消えている。早朝、真っ暗な中で散歩している。街灯をつけてもらえないのか。

【市長】

- ・状況を確認したい。市民の皆様が利用しやすいようにしていきたい。

○道路の安全表示について

【社会福祉協議会会長】

- ・立哨をしている。路面標示が消えていたため市に相談したところ、交通安全協会が担当であると言われた。警察にも相談したが、すぐには対応してもらえなかった。市のほうで良い対応方法があれば教えて欲しい。

【市長】

- ・宇部市内の多くの箇所で消えている状況は認識している。県道であるが、通学路でもあるため、子どもたちの安心安全のため、しっかり県につないでいきたい。

【市長】

- ・本日いただいた提言は、第5次総合計画に生かしていく。
- ・他地区で多く意見が寄せられている「自治会役員のなり手がいない」という課題にも参加しやすい環境を整えていきたいと思っている。
- ・今後も、さまざまなご意見をお寄せいただきたい。